中高一貫教育実践研究報告書

長野県中高一貫教育実践研究協力校

軽井沢町立軽井沢中学校
長野県軽井沢高等学校

1　研究主題

「特色学科を活かした中高一貫教育」

2　軽井沢地区実践研究協力校

軽井沢町立軽井沢中学校　長野県軽井沢高等学校

3　軽井沢地区実践研究組織

長野県研究会議委員	小林通昭校長（軽井沢中学校）
	松田貞盛校長（軽井沢高等学校）
軽井沢地区研究委員長	市村　渉（軽井沢高等学校・数学）
軽井沢地区副研究委員長	小林研一（軽井沢中学校・美術）

軽井沢地区研究委員

軽井沢中学校	軽井沢高等学校
成田保夫（教頭）	三井忠人（教頭）
原　英正（教務・国語）	宮崎良史（進路・国語）
片桐芳之（生徒指導・英語）	池田誠司（英語科主任）
井出忠雄（２学年主任・社会）	小林幹雄（生徒指導・理科）
市村雅之（英語科主任）	内堀繁利（教務・英語・３学年主任）

4　地域の特色

軽井沢町は、国際親善文化観光都市・自然保健休養地として世界的に知られ、平均海抜約千メートルの豊かな自然に恵まれた浅間山麓に位置している。明治以来この地に開発された別荘は現在約１万３千戸、企業や学校の寮は約５００戸、ホテル・ペンションは約１３０戸を数える。町の人口は約１万５千人であるが、夏にはその約１０倍の１４万人を越すと言われている。さらに長野新幹線の開通によって、首都通勤圏に入り、新たな発展の時期を迎えている。

5　学校の特色及び生徒の実態

(1)　軽井沢中学校

昭和２２年学制改革により発足。教育にかける地元の熱意厚く、独立校舎建設にあたって全国２番目のモデルスクールの指定を受ける（県下では最初）。以後、軽井沢地域の中等教育を担って、平成１０年で１３，０００人余の卒業生を送り出している。地域と一体化した生徒会活動や部活動が盛んであり、生徒会活動は、町をきれいにする運動が現在「クリーン軽井沢」として生徒に定着し、また、どんぐりの植樹や施設訪問等を行っている。部活動は冬季競技での活躍がめざましく、スケート競技では常に県下をリードし、全国での活躍も光っている。長野オ

リンピックを経て、カーリングの活動も始まった。アイスホッケー部は常に上位に入賞している。昨年度の全中盛岡大会では全国３位であった。生徒数に比してたくさんの部活動があり、生徒は自分にあった部活動を選び技能の向上や心身の鍛練に励んでいる。

大正時代に避暑地として始まった国際観光地として長い歴史を持っているため、地域住民も生徒も落ちついた雰囲気を持っている。経済的に恵まれた環境にあるため学習面でのんびりした生徒が多いが、英語は意欲的な姿が見られる。

進路は卒業生の半数近くが軽井沢高等学校へ進学しており、軽井沢高等学校との関係は大変深い。

(2)　軽井沢高等学校

昭和１８年軽井沢町立軽井沢高等女学校開校。昭和２３年学制変更により長野県軽井沢高等学校となる。現在は英語科・普通科の２学科からなる男女共学の全日制高校であり、地域高校として地元の生徒を多く受け入れている（全校生徒のうち、軽井沢中学校卒業生が約４割、御代田中学校卒業生が約２割を占める。また、英語科での軽井沢中学校卒業生の占める割合は約３割である）。

普通科では、多様な進路希望を持つ生徒や地域の要請に応えるため、２年次より文系・教養・理系・情報の４コース制を取り入れ、習熟度別授業や少人数学級編成なども行いつつ、学力の向上・学習意欲の喚起に努めている。また平成１１年度からは普通科にも推薦入試を導入するなど、地域に根ざした特色ある学校作りに取り組んでいる。

平成５年度に設置された英語科では、読む、書く、聞く、話すの４技能をバランスよく高め、すぐれた実践的英語力と豊かな国際感覚を身につけさせること（発信型英語力の育成）を目標に、バラエティーに富んだ行事や特色ある教育内容の実践に努めており、各方面より高い評価をいただいている。

このように、清新なカリキュラムを取り入れる一方、生徒指導にも力を入れている。更に、生徒会活動やクラブ活動においても、近年とみに日頃の活動の成果が現れてきている。なかでも、テニス部・野球部の北信越大会出場、スピードスケート部のインターハイ出場、またアイスホッケー部の長野国体における３位入賞など、県大会や北信越大会・全国大会で活躍するクラブが多くなり、ますます校内に活気が出てきている。

6　研究概要

軽井沢中学校と軽井沢高等学校とで連携して種々の取り組みを行った。（Ｐ１１資料①参照）

(1)授業公開及び中高合同教科別研究会

ア　英語科

第１回合同教科研究会（５月２７日）

５月２６日・２７日と中高で授業公開が行われた。それを受けて５月２７日に

中高での連携を探るべく、その現状と問題点が話し合われた。連携(交流)の可能性のあるものとして、次のような内容があげられた。

・６年間を見通しての「軽井沢」を題材とした英語教材作り。
・英語レシテーション(朗読、朗唱)コンテスト、スピーチコンテストにおける相互交流。
・高等学校英語科講演会(年３～４回、社会人講師による英語科生徒対象の講演会)への中学生の参加。
・中高合同のミニ英語合宿を通じた交流。

第２回合同教科研究会（７月１９日）

第１回合同教科会を受けて「軽井沢に関する英語教材作り」について話し合われた。

軽井沢中学校

１年生　『軽井沢観光案内図』の作成。全体で軽井沢に関するテーマを取り上げ、各テーマを３人ずつのグループで分担し作成する。(中学校文化祭で展示発表、その後高校でも展示)

２年生　軽井沢町を紹介するビデオの作成。英語表現の学習、映像表現の方法など研究。

３年生　意見文『これからの軽井沢』を英語で表現させる。

軽井沢高等学校英語科

１年生（科目「英語表現」）　“Research On Karuizawa 1999” の作成。４人ずつのグループで軽井沢町内の著名な人物や店舗、また姉妹都市であるカナダ国ウィスラー市等について調べてまとめ、カラー冊子を完成。(高校の文化祭で発表、中学校へ配布)

２年生（科目「英語表現」）軽井沢に伝わる伝説をモチーフに、シナリオを作成し、英語劇を上演（ビデオに収録）。

３年生　(科目「外国事情」)　ビデオ作品の作成。４人ずつのグループで軽井沢在住あるいは別荘所有の著名人についてリサーチし、ビデオカメラを用いてドキュメント、ドラマなどを作成。

第３回合同教科研究会（１１月４日）

１０月１９日・２０日と中高で授業公開、１１月４日に中高連携の英語教育についての学習会を行った。それを受けて合同教科会を行い、中学と高校での６年間を見通した英語教育について交流をした。

第４回合同教科研究会（１１月２５日）

１年間のまとめを行い、年間活動の総括をした。

・６年間を見通しての「軽井沢」を題材とした英語教材作り。

→自分の国、地域を知るという点でよい機会になった。作成したものをお互いに展示し合うということが生徒に刺激になった。

・英語レシテーション(朗読、朗唱)コンテスト、スピーチコンテストにおける相互交流。
→双方ともに発表の機会が増え、お互いにとって良い励みになった。また、高校生が中学生の前で発表することにより、中学生にとっては到達目標が明確になるなどの成果があり、来年度以降も継続して実施していくことが確認された。

・英語科講演会への中学生の参加。
→今年度は、年間行事計画が既に決まっている中での連携であったため、日程的に中学生の参加ができなかった。来年度以降積極的に計画していきたい。

・中高合同のミニ英語合宿を通じた交流。
→軽井沢中学生全員の体験入学の際、希望生徒が高校の発信型の授業を体験するという形で部分的に実現した。専門学科の英語教育が体験できたことは、中学生にとって新鮮な授業であったようである（Ｐ１３資料②参照）。

・その他
→「教師同士が知り合いになれたことが良かった。授業参観の交流も教師にも生徒にも良い刺激になった。中高それぞれの実践から学ぶことが多くあった。ＡＥＴ同士の交流を深めるなど今後も交流していきたい。」など、今年の交流をきっかけに、これからも何らかの形で続けていきたいという意見がほとんどであった。

イ　その他の教科・係

第１回合同教科研究会（５月２７日）

５月２６日・２７日と中高で授業公開が行われた。それを受けて５月２７日に中高での連携を探るべく、その現状と問題点が話し合われた。連携(交流)の可能性のあるものとして、次のような内容があげられた。

国語科	・漢字ドリル、漢字検定の継続的指導
社会科	・高校教員の専門分野についての中学での講義
	・地域学習教材の合同研究
数学科	・数学検定に中学生も含めた合同指導
理科	・中高共同での教材研究。
音楽科	・ギターや琴などの楽器を使った合同授業の展開
	・文化祭(音楽会)を通じた交流　・吹奏楽部の合同練習
美術科	・中高合同展覧会の実施
保健体育科	・クラブ活動での合同練習

家庭科　　　・相互授業参観、６年間を見通した教材研究
技術・商業科・高校での資格取得等の様子を中学へ公表
図書館　　　・図書館の交流、文化祭における図書委員会の交流
保健室　　　・養護教諭の交流、性教育についての意見交換
生徒指導　　・生徒指導についての情報交換
生徒会　　　・生徒会活動の連携、中高本部役員の交流

中高一貫教育実践研究の第一歩としてお互いの授業を参観し、合同の教科会で意見を出しあうことにより、中高それぞれの教科指導、生徒指導について認識が深まった。それぞれの教科が個別に可能な時間帯で交流・連携を深めて行くことが確認された。

第２回合同教科会（１１月２５日）

ここまでで以下の点について交流できたことが確認された。

・古典学習の一貫性の研究（国語科）
・中高合同研究授業の実施（社会科、同和教育）
・数学検定の中高合同実施（数学科）
・教材の共同研究（理科）
・吹奏楽の中高合同演奏（音楽科）
・中高合同展覧会の実施（美術科）
・スピードスケート、アイスホッケー、陸上、剣道の部活動での交流、合同練習の実施（保健体育科）
・授業参観（家庭科）
・図書館の交流（中学の司書が高校の読書旬間中の１２月２１日に高校へ出向き、本の読み聞かせを実施、相互の図書館開放、利用）
・養護教諭の交流（不登校、いじめなど６年間を見通した生徒の把握と相談指導の連携）
・生徒指導の継続指導（生徒指導についての情報交換）

授業参観・教科会の成果と課題
成果
・各教科で、６年間を見通した一貫した教育について研究することができた。
・教員相互が交流することにより、中学校における高校入試の存在の大きさ、授業の進め方、生徒指導上の相違など中高それぞれの問題点が今まで以上に理解でき、教員の研修の機会になった。
・中高職員が授業参観、教科会等で学校を何度も行き来することにより、お互いの学校が身近に感じられ、中高協力しての教材研究など協力しやすい体制になった。また、中高の職員が６年間生徒を見続けることにより、生徒の発達段階に応じて中高協力しながら生徒を指導できるメリットが確認できた。
課題
・中高お互いに多忙な中で連携の日程がとりづらい。
・連携型の場合、併設型または中等学校型に比べると中高協力しての教材研究、

６年間の生徒の発達段階に応じた指導などに限界が感じられる。
・高校としては、連携相手の中学校のみの交流となり、他中学校から進学してくる生徒についての配慮が必要になる。また、中学校としては、連携相手のみの交流となり、他の高校へ進学する生徒についての配慮が必要になる。

(2)授業・特別活動における連携

ア　授業体験

１１月２日に軽井沢中学校３年生１７３名全員の体験入学を行った。

その中で、高校の各教科が一つずつ講座を開講し、体験授業を行った。自分の進路を考えるに当たってプラスになったという感想が多かった（Ｐ１３資料②参照）。

授業体験の成果と課題

成果

・環境が変わって学習できることにより、中学生の学習意欲が増した。
・中学生がより専門性の高い高校の先生に教わることはとても良い刺激となった。

課題

・交流授業を実現するには、中高の日課・時間の統一や調整が必要である。現状ではロスタイムが多く、難しいと思われる。
・交流授業の年間計画、ティームティーチングの運営方法など、事前に十分時間をかけた綿密な調整が必要となってくる。

イ　部活動

軽井沢中学３年生全員体験入学の際、部活動見学を行った。中学生の感想からは、「自分に目標が見つかった。」「高校生の活躍する姿が印象的だった」など、異年齢集団の交流のメリットが感じられた（Ｐ１３資料②参照）。

また、アイスホッケー、スピードスケート、陸上、剣道、演劇、吹奏楽の部活動で合同練習を行った。軽井沢地区はウィンタースポーツが盛んであり、また練習場所が重なることがあって、この面での連携は行いやすい。

部活動の連携の成果と課題

成果

・中学生がレベルの高い高校の部活動を見学することにより、自分の目標が定まった生徒が多かった。
・中学生は技術の高い高校生を手本に、そのレベルに追いつこうとし、高校生は後輩に負けられないと今まで以上に積極的に部活動に打ち込む生徒が多くなった。

課題

・高校の部活動加入率の減少、高校の規模が小さいなど部員確保が困難な状況にある。
・中学校の部活動が高校よりも盛んな場合があり、高校側の意気が上がらなくなる種目もある。
・合同で活動する時間の確保が難しい。顧問職員が多忙なため、部活動に参加できない場合も出てくる。

・中学校の大会と高校の大会の日程が異なっており、合同練習の日程が合わない。
・公立学校の場合、職員の異動があるため、長い目での６年間一貫した部活動指導ができにくい。
・中学校と高校が近い距離にはあるが、道具を持っての移動は大変である。

ウ　生徒会活動

(ｱ)　文化祭での連携

今年度は、高校の文化祭は９月４・５日に行われ、中学校の生徒会役員が高校に来て、高校の生徒会役員と交流した。

また、軽井沢中学校で９月１７・１８日に行われた文化祭に高校が参加し、以下の連携を行った。中学の文化祭での高校の発表は、今までになかったものとして注目された（Ｐ１７資料③参照）。

・オープニングに英語科二年生が「浅間太鼓」の演奏を行った。
・英語弁論大会に、英語科二年生のイングリッシュキャンプでのスピーチコンテスト優勝者が模範スピーチを行った。
・一室を設けて、英語科展・英語クラブ展を含む高校の文化祭展示の一部を展示した。
展示した団体：英語科（中高一貫教育研究の「軽井沢についての教材作り」の展示）、英語クラブ（宇多田ヒカルについて）、１年３組（ペットボトルについて）、営繕美化委員会（軽井沢町のゴミ処理について）、出版委員会（軽井沢について）、図書委員会（ムーミンの世界）、２学年（沖縄展）、家庭科クラブ（軽井沢の草木染め）、美術部（美術部作品出展）、商業科（生徒作成の軽井沢に関するデータの紹介）、生徒会本部（軽井沢高校生徒会新聞展示）

(ｲ)　美化活動での連携（９月３０日）

中学と高校で分担を決め、ＰＴＡも参加し、軽井沢町内のゴミ拾い、駅の清掃などの美化活動を中高合同で行った。

(ｳ)　ボランティア活動での連携（１２月４日）

中学生と高校生で軽井沢町内にある特別養護老人ホーム「静山荘」へ訪問し、施設の清掃、スライドの上演、歌などを企画し、お年寄りと交流した。
参加した高校生の感想
・掃除中など、お年寄りと交流しやすかった。もう少し工夫すればもっと充実したボランティア活動ができそう。中学生とはすぐにうち解けられた。
・半日では短いと感じた。楽しかったけど、もっとお年寄りの方と話をしたいと思った。中学生がしっかりしていてびっくりした。中学生と仲良くなったのでまた是非やってみたい。機会があればまた中学生とやってみたい。
・とても楽しかった。中学生ががんばっていて自分もがんばらなければと思った。

このように好意的な感想がほとんどであった。今回は中学が行っているとこ

ろに高校が参加させてもらうという形で行ったが、中高での打ち合わせの時間がほとんどなかった。事前の打ち合わせの時間をきちんと取り、高校生のアイデアが活かされればもっと濃密な交流ができたと思われる。今後の課題にしたい。

生徒会活動の成果と課題

成果

・生徒会活動の連携では高校生が中学生の良きお手本となり、中学生と協力してレベルの高い文化祭、各種行事を行うことができた。
・高校生にとっても中学生の前で発表するという機会が与えられ、準備にも熱が入り、緊張感を持って発表できたようだ。
・中学校の生徒会活動には、高校生のアイデアを生かすことでもっと密度の濃くなるものがあり、連携は大きな意義がある。

課題

・両校で打ち合わせをする時間の確保がなかなか難しい実態がある。今年度は両校顧問の連携のなかで生徒の意見を反映させるに留まった。生徒会執行部の顔合わせ、合同のリーダー研修などを考えていく必要がある。
・生徒指導上の問題などにより、中学の文化祭は高校生に開放されていない。また、太鼓を演奏した生徒達の制服の着用の仕方など、特に生徒指導で高校に違和感を感じる中学教師がいた。
・それぞれ忙しい中で連携を行っており、自校の文化祭で精一杯というのが実状である。今回は生徒会顧問の熱意でここまでできた。

(3)　県外中高一貫教育先進校の視察

ア　東京大学附属中学校・高等学校（7月15日）

併設型ではどんなことができるかということで訪問した。カリキュラムを特に変えているわけではないが、うまく6年間を2－2－2制とし、中だるみにならない工夫を行っており、学年ごとの達成目標が明確なこと、異学年集団の密接な交流などもあって大変参考になった。

イ　三重県飯南高等学校（7月16日）

飯南高校は全国で唯一連携型中高一貫校として3つの中学と連携し、この4月にスタートした高校であるが、生徒の交流は軽井沢地区で行っている連携の方が進んでいるように感じた。授業交流を行った場合に、中高の教師がティームティーチングで多面的に生徒を指導できるなどの利点、連携校に行って授業を行った場合に、自校の行事やクラス経営に支障が生じるなどの課題がよく理解できた。

また、高校を総合学科にして、入試については簡易な選抜をする、大学との連携も考えている、など連携型中高一貫教育の一つの形を学ぶことができた。

(4)　6年間を見通した教育課程

１年間の連携型一貫教育実践研究のため、英語教育において、内容に踏み込んで６年間を見通した計画を立てることはできなかった。しかし、「軽井沢に関する英語教材作り」を行う中で、あるいは６年間継続して発達段階に応じた教材で学習する中で、あるいは異年齢集団の交流による刺激を受けることで生徒は英語教育への興味関心を高めていけると考える。

連携型の場合、中学から他の高校へ進学する生徒もいるため、教育課程の変更は難しく、行事等を中心とした連携プログラムが主になる。しかし、行事を主とした連携だけでもメリットがあることがはっきりした。

(5)　中高接続のあり方

高校入学者選抜については検討する時間がなかった。接続のあり方の研究として、１１月２日に軽井沢中学校三年生全員による軽井沢高校体験入学行った。その際の中学生の感想に、地元の高校がよく分かったという意見が多く寄せられたことから、まず、中高のパイプを太くし、中学生が高校の様子を理解する事が第一であると考える。単に学力検査をなくすということではなく、高校の様子を理解し、積極的な学習姿勢を持つ中学生を育て、受け入れることができるような連携活動を行う中で、接続のあり方を検討することがよいと思われる。

(6)　研修会等への参加

日本高校教育学会長野県支部研究会への参加（２回)。

(7)　研究委員会の開催

計８回（内２回は今後実施予定）の中高一貫教育研究委員会を行った。委員会ではまず中高職員が交流し、お互いを理解することから始めて、行事・生徒の交流へ広げることにし、その手段について議論を行った。接続の問題については議論できなかった。

7　考察

(1)　意義（趣旨について)

軽井沢地区について見ると、軽井沢町に１つの高校、１つの中学校しかない割にはこれまでお互いの職員の交流機会は少なく、生徒の交流行事もほとんどなかった。

こうした経過も踏まえて、中高一貫教育の実践研究にあたっては、特色学科である英語科を中心に据えながらも、研究が学校全体のものとなるように取り組んできた。様々な連携を終えてのアンケート、中高合同教科会などから、中学校と高校が連携型中高一貫教育を行うことは、職員、生徒にとって次のような利点があると考えられる。

ア　異年齢集団による交流のなかで、中学生にとっては高校生の活躍する姿を見たり、一緒に活動する場が生まれるので、より高い到達目標が具体的な形で見い

だせる。また、高校生には中学生の良き手本となろうとする姿が生まれる。このことは児童・生徒の自主性、積極性を高め、学習意欲を増大させる。さらに、多くの生徒がより幅広く交流できる方法を探ることにより、社会性、人間性の育成が期待される。

イ　教師が中高相互に交流することにより、6年間のスパンで生徒の実態を知り、その発達段階に応じた指導が可能になる。また、教科指導、生徒指導における視野の拡大、理解の深まりが期待される。

ウ　特色学科を活かすという観点からは、軽井沢高校英語科の発信型英語力育成の教育と軽井沢中学校の持っている基礎育成の英語教育とを結びつけて、実践的な英語力向上につなげることが考えられる。

中高一貫教育を実施するしないに関わらず、学校の特性、地域の状況を考慮すると、中学校と高校との連携は今後も必要と思われる。

(2)　趣旨を活かした教育活動に伴う課題について

連携型で中高一貫教育を導入するための課題としては、以下の点が上げられる。

ア　連携型の一貫教育では、教育課程上の柔軟な改編は難しく、どうしても行事を主とした連携プログラムが中心になる。

イ　中高二つの組織で連携計画を立てる場合、打ち合わせの時間の確保、行事及び日程等の調整に多大な労力を要する。

ウ　接続については、連携高校についての中学生の理解が深まり、より一層適性に応じた進路選択が可能になる反面、非連携高校への進学者に対する中学校の対応が難しくなることが懸念される。

エ　特色学科のみの連携を行った場合、中学校の教育の複線化及び生徒の学力面における早期序列化が懸念される。

オ　生徒指導面で、中高の共通理解に困難が伴う。

カ　高校入試を簡易な選抜にすることにより、学力低下が懸念される。

これらの課題を解決するために、中高の相互理解を深めること、中高における学習指導及び生徒指導の研究を推進すること、中高の過密な各種行事の精選をすること、学校運営を円滑に行うために人的配慮をすること等が必要と思われる。

(3)　設置形態について

連携型でも一定の教育的な効果はあった。しかし、特色学科を活かした6年間一貫した英語教育という点においては、連携型では行事を中心としたものとなり、メリットは限られてしまう。特色学科を活かした中高一貫教育においては、教育課程の編成上融通性のある併設型や中等学校型の方が望ましいと思われる。

資料①

中高一貫教育研究および活動経過

月日	会議・活動	内　　容
2.10	第３回長野県中高一貫教育研究会議	長野県中高一貫教育実践研究協力校に指定される。
3. 1	長野県中高一貫教育実践研究協力校説明会	中高の校長、担当予定者各１名が出席。県教委より中高一貫教育及び実践研究について説明を受ける。
3.29	地区準備会（軽井沢高校）	両校教頭、研究委員長の４名が出席。委員会の構成、5月までの日程などを検討。
4. 5	第１回軽井沢中・高　校内委員会	職員アンケートの実施他
4.13	第２回軽井沢中・高　校内委員会	軽井沢地区研究委員会（校長、教頭、委員各５名の構成）　アンケートのまとめ
4.20	第１回地区研究委員会（軽井沢高校）	委員の紹介と研究計画の立案
5. 7	第２回地区研究委員会（軽井沢中）	高校教育課石田指導主事と質疑、意見交換。研究主題、研究計画、合同教科会について
5.13	学校訪問（高校委員長）	中野実業高校（南澤信之先生）
5.14	軽井沢高校校内研究委員会	第３回地区研究委員会にむけて
5.17	第３回地区研究委員会（軽井沢高）	研究計画案と授業公開・合同教科会について
5.21	第４回長野県中高一貫教育研究会議	両校校長出席　中高一貫教育の教育内容について
5.26	授業公開（中、高）	報道機関の取材あり
5.27	授業公開（中、高）	
5.27	第１回中高合同教科会（軽井沢高校）	各教科ごとに年間計画の立案
6. 8	軽井沢町学校職員会（小・中・高）	軽井沢町職員へ中高一貫教育研究について説明
6. 8	授業公開（家庭科）	中高で授業公開
6.10	第３回軽井沢中・高　校内委員会	合同教科会まとめ
6.22	第４回地区研究委員会（軽井沢中）	合同教科会のまとめと今後の進め方について
6.26	日本高校教育学会長野県支部研究会（信州大学）	高校委員長出席
6,7月	軽井沢高校地区ＰＴＡ	中高一貫教育研究について保護者へ説明
7. 6	第５回長野県中高一貫教育研究会議	両校校長出席　中高一貫教育の実施形態について
7. 6	中高一貫教育講演会（軽井沢高）	講師南澤信之先生（中野実業高校）
7. 7	学校訪問（新潟県津南高校）	高校から２名参加
7.15	学校訪問（東京大学付属中学・高校）	高・中委員長参加
7.16	学校訪問（三重県飯南高校）	高・中委員長参加

7.19	中高合同英語科教科会(軽井沢中学)	英語教材作成について他
7.21	中高一貫教育推進フォーラム(東京)	両校学校長出席
7.22	第５回地区研究委員会(軽井沢高校)	１学期のまとめと２学期の実践に向けて
8.27	犀峡地区の講演会	高校から１名参加。三重県飯南地区から飯南中学校長、飯南高校教頭を招いての講演会
8.31	長野高教組中高一貫教育先進校視察	高知県嶺北高校（高校委員長出席）
9. 5	軽井沢高校噴煙祭	軽井沢中学生徒会執行部、一般生徒見学
9.13	第６回長野県中高一貫教育研究会議	両校校長出席　中高一貫教育の接続の問題について・中間まとめ
9.17	軽井沢中学校からまつ祭	軽井沢高校生徒会執行部見学、高校生の発表「浅間太鼓」・「英語模範スピーチ」
9.18	軽井沢中学校からまつ祭	軽井沢高校文化祭展示発表、中高合同美術展
9.24	軽井沢中学道徳研究授業	軽井沢高校から１名参加
9.25	日本高校教育学会長野県支部研究会（信州大学）	高校委員長出席
9.30	中高合同軽井沢町美化清掃	中学：全生徒が参加　高校：美化委員、外掃担当生徒、生徒会本部、ＰＴＡ参加
10.19	中高英語科授業公開　（両校）	双方の英語科職員による授業公開
10.20	中高英語科授業公開　（両校）	双方の英語科職員による授業公開
10.22	軽井沢中学社会科研究授業	軽井沢高校社会科５名全員参加
10.26	英語科レシテーションコンテスト（軽井沢高校）	軽井沢中学英語科職員、ＡＥＴ審査員、軽井沢中学生代表特別スピーチ（３名）
11. 2	軽井沢中学３年生１７３名全員の体験入学（軽井沢高校）	午後を利用し、全体会、授業体験、クラブ見学の実施。
11. 4	中高合同英語教育講演会(軽井沢高)	講師　慶応大学名誉教授　鈴木孝夫先生
11. 4	英語科中高合同教科会(軽井沢高校)	授業公開に関する質疑、今後の英語科連携について
11. 6	数学検定の中高合同実施(軽井沢高)	軽井沢中学生１２名受験
11. 8	第６回地区研究委員会（軽井沢中）	県への報告について、合同教科会のもちかたについて
11.16	第７回長野県中高一貫教育研究会議	両校校長出席　まとめの検討
11.24	軽井沢中学授業公開	
11.25	軽井沢高校授業公開	
11.25	第２回中高合同教科会(軽井沢中学)	各教科ごとに１年間の反省、総括、今後の見通しについて
12. 1	高校英語科英語劇の上演	軽井沢に伝わる伝説をモチーフにシナリオを作成し、発表する。
12. 4	中高合同ボランティア活動	静山荘（特別養護老人ホーム）訪問
12.21	中高図書館交流	中学の司書が高校で本の読み聞かせ。
1	第７回地区研究委員会（軽井沢高）	県への報告に向けて
1.18	第７回長野県中高一貫教育研究会議	両校校長出席　まとめ
2	第８回地区研究委員会（軽井沢中）	

軽中３年生（１７３名）体験入学アンケート結果

時　間	内　容
13:30 ～ 13:40	受　付
13:40 ～ 14:00	部活見学
14:00 ～ 14:10	移　動
14:10 ～ 15:00	全体会
15:00 ～ 15:10	移動休憩
15:10 ～ 15:50	体験授業
15:50 ～ 15:55	移　動
16:00	解　散

教科	講座内容
国語	漢字検定について
社会	貿易ゲームで国際関係を学ぼう
数学	音楽と数学のいい関係（高校数学の導入）
理科	光合成ペンダントを作ろう
英語	Let's have some fun with English !
音楽	アンサンブル入門
美術	メディアを利用した絵画表現
書道	拓本実習
保体	バレーボール　～レシーブの基本～
家庭	草木染め体験
商業	コンピュータを使ってオリジナル便せんを作ろう

１　良かった点、印象に残ったことがあったら書いてください。

注　（　）内の数字は人数

・部活見学でそれぞれの部でみんなが生き生きしていたところ（１０）。　・文化祭、学校生活の様子がよくわかり、楽しそうだった（１８）。　・先生方がとても親切だった（５）。　・ビデオ鑑賞がすごく見やすくて良かった（１７）。　・授業体験がとても楽しかった（２４）。　・部活見学がよかった（２４）。　・先生方がとてもいい教え方をしてくれてよかった（２）。　・高校の説明でどんなことをやっているかなどを結構詳しく教えてもらえた（３）。　・楽しさが伝わってきたこと（４）。

２　悪かった点、あるいは印象が良くなかったことがあったら書いてください。

・体験授業が人数の関係で自分の１番いきたいとこにいけなかった（４）。　・部活にでている人が少ししかいなかったこと（３）。　・校舎が古い（９）。

悪かった点はあまり指摘されていない。他校の体験入学に参加した生徒には施設や、この時期（１・２年のみ）の部活動の人数の少なさに目がいってしまったようだ。中学の先生方からは、高校生の携帯電話、服装を何とかしてほしいという意見が多かった。もちろん高校でも指導しているわけだが中学と高校で接続した場合、生徒指導方針の違いという問題点が浮き彫りにされた。

３　体験授業の感想を書いてください。

国語

・楽しくわかりやすくできた。　・漢字についてテストをしてみてそのテストの内容がおもしろかった。　・小学校１，２年の漢字をやって少し難しかった。　・漢字検定についてよくわかった。　・１つの字でもいろいろな特徴があるのでおもしろいと

思った。もう少し漢字の練習をがんばろうと思った。　・テストをやった。難しかったが楽しくできた。

社会

・貿易ゲームはおもしろかった。時間が少なくて残念だった。貿易ゲームをやったが、駆け引きが難しかったが楽しかった（２）。　ゲームなどで先生もよく教えてくれたりしてよかった。とてもいい勉強になってわかりやすい。　・とてもわかりやすかったし、貿易ゲームはとてもおもしろかった。　・楽しかった（２）。　・集中しながらも楽しくできた。　・相手国とのやりとりでものを手に入れるなどおもしろいゲームだった。　・ゲーム感覚で貿易のことをやったのがとてもおもしろくよく覚えられた。

数学

・わかるところもあった。歌が良かった。　・ギターを使ってわかりやすかった。
・先生がとてもおもしろくて、授業が楽しかった。　・なかなかおもしろいなと思った（３）。　・数学と音楽の意外な関係というテーマで、とても楽しくグラフをかけました。　・最後の歌がとてもよかったです。あと、ギターもっとうまくなってください。　・とても楽しかった。ギターがうまかった。　・最後の数分に先生がギターライブをやってくれて心に火がついたし、印象に残った。

理科

・生物で光合成の復習もできて楽しく授業ができた。楽しくいい授業だった（６）。
・先生がよかったし、授業も楽しかった（２）。　・先生が超おもしろかったし、光合成ペンダントというものを作ってもらえたので楽しかった。　・とてもわかりやすい説明をしてくれて楽しかった。　・わからないところもあったけどとてもよくできた。　・とてもいい雰囲気で学べた。　・中学では教えてくれなかったことを教えてくれたので勉強になった。

英語

・普段できないことがいっぱいあったのですごくためになったし、楽しかった。・とても楽しかった（４）。　・難しいことばかりやってあてられたらどうしようと思いながらも楽しく勉強できた。　・英語でとても大事なことを教えてくれた。　・楽しく時間があっという間に過ぎた。　・顔で表現することの大切さ、人への気持ち、本当にいい勉強になったし、楽しかった。　・先生がすごく生き生きとした英語を使ってくださり生の英語にふれることができた。　・目でコンタクトをとって顔の表情をいろいろ変えて自分の気持ちを相手に伝えるということを教えてもらった。　・とてもわかりやすく自分をオープンにしたすごく楽しい授業でした。

書道

・拓本というのは何かわからなくて心配だったけど、初めて体験してみてとても楽しかった。　・おもしろかったけど手がつかれた。　・第３希望でやだなと思っていたけどすごくおもしろかったから良かった。　・拓本を初めてやっておもしろかった。
・今までにやったことがない拓本というのをやって古典も混ざっていて書道をやりながら古典も勉強しているというように思え楽しませてもらい印象強いです。　・おもしろいことをやったので印象に残った。

美術

・結構簡単で楽しかった。いっぱい失敗もしたけど先生も優しかった。　・葉っぱを使ってカレンダーを作ってちょっと失敗したけどすごくおもしろかった。　・とってもおもしろくカレンダーづくりもしっかりできた。カレンダー制作で落ち葉を使った

作品とかおもしろかった。　・短時間でできる絵をやってすごく楽しかった。いろいろな絵が貼ってあってすごかった。

音楽

・みんなで演奏したエーデルワイスが楽しかった。　・先生がおもしろかったので楽しめた。　・先生が優しいし、おもしろい。　・楽器を使うのが難しかった。　・みんなでやることができたのしかった。　・ミュージックベルをやって結構楽しかった。ちょっと難しかった。　・先生もおもしろかったし授業内容も良かった。楽器を使ってやったのでおもしろかった。

家庭科

・タマネギの草木染めをやったけど、おもしろかった。説明もよくわかったし、きちんと教えてくれた。　・先生がとても優しくていい作品も作れたし、本当によかったです。いい体験をさせてもらいました。　・楽しかった（４）。　・よく染められてよかった。　・もう一度やってみたい。　・先生がとても優しく指導してくださったのでスムーズに進んでいってとても楽しかった。

保健体育

・バレーは苦手だった（２）。　・レシーブの基本で細かくいろいろ教えてくれた。
・いろいろなことができて楽しかった（６）。　・ボールが大きくて、少しだけやりやすかった。レシーブの基本からきちんと教えてくれたり、いろいろなことが楽しかった。　・とても楽しくバレーができた。　・楽しくできた。いろいろなことが身に付いた。　・高校ではどんな風に授業をやるのかを疑問に思っていましたが、今日は基本から教えたりしてもらったし、いつもと違うボールだったりと、とっても楽しかった。　・苦手だったけど楽しくやれた。

商業

・便せんを作ったりして、とても楽しかった（１２）。　・最初から丁寧に教えていただいたのでとてもわかりやすく、楽しかった。　・優しい先生たちでとても楽しく授業が体験できた（３）。　・先生がすごくわかりやすく教えてくださいました。自分でわからないところも気軽に聞くことができました。

体験授業は極めて好評であり、行ったことに対しての否定的な意見は１つもなかった。高校教師の力量もあるが、いつもと違う環境で高校の授業の一端に触れることができ、知的好奇心を刺激された中学生が多かったことがうかがわれる。中学の先生達にも、自身の教材研究にもなったと大変好評であった。

4　部活動見学についての感想を書いてください。

（実施部活動：全運動部、文化部５部　）

・迫力があって中学とは違うなと思った（２１）。　・人数が少なくてもがんばっていたと思った（５）。　・バスケットはいろんな技術が見られてよかった（２）。
・バスケ、バドともテクニックがすごかった。バドのシャトルの速さがすごかった（２）。　・どの部活もとても活気があり楽しそうだった（２２）。　・演劇部は楽しそうだった（３）。　・中学とたいして変わらないような気がした（２）。　・バスケはうまくて驚いた。バドはスマッシュが速くて怖かった（３）。　・バドミントンはすごく上手でやる気を感じた（４）。　・演劇部の発表がおもしろかった（３）。
・もっとたくさんのクラブを見たい。（２）

ほとんどの中学生が中学と高校の違いに感心し、自分の部活動に目標を持ったようであった。中には、軽高へ来て入る部活を決めた、そのために勉強をがんばりたいという生徒もいた。しかし、部活動加入率の低下などですべての部活動が活発であるとはいえず、わずかだが、中には不満を感じる生徒もいた。中学では部活動に全員参加である。それに対し、軽井沢高校は希望者のみとなっている。これらの理由もあり、人数が少なく活気がない印象を与えた部活もある。

5　本校の感想、要望や今後の体験入学に望むことがありましたら書いてください。

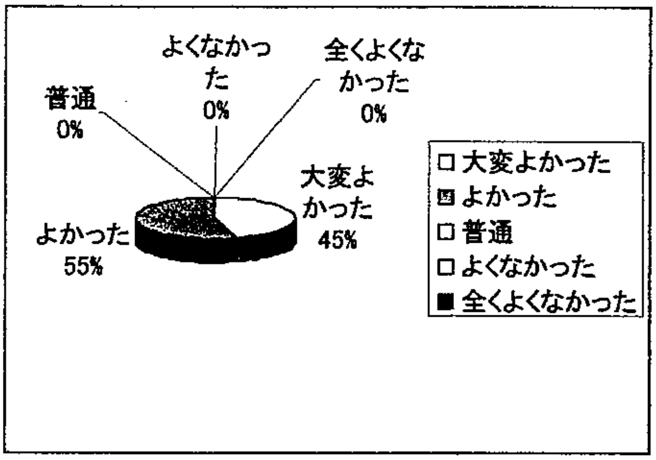
・クラブ見学では一緒にやりたかった（４）。　・クラブ見学の時間を長くしてほしい（１０）。　・授業や部活動の雰囲気を知ることができてよかったです。　・とてもおもしろく、軽高がどんな場所かわかってよかった（４）。　・とても楽しそうな学校だと思った（６）。　・とてもよい体験入学だった。がんばって勉強して入学したい。　・とても参考になった。結構いい学校だと思う。　・ビデオでの解説もっとはっきりしゃべってほしかったが、ビデオづくりはすごかった。　・文化祭がとても盛り上がっていて明るい印象を受け「ぜったい軽高来たい！！」と思った。　・非常にわかりやすく、おもしろく体験入学することができた（２）。　・普段見ることができない軽高を見ることができてよかった。　・高校がどういうところだとかがよくわかった。初めて体験した「商業」も楽しかった。　・最初は軽高の印象はとても悪そうだと思ったが、とてもすばらしかった。　・すごく楽しかった。先輩のみなさんも優しい人ばかりでした。　・先生＆生徒さんがすごく優しいイメージでした。疲れたけど楽しい体験ができました。ありがとうございました。　・ビデオでは噴煙祭、充実した日々を送っている高校生の様子が分かって良かった。　・授業中その他も見てみたかった。明るくていい雰囲気だなと思った。ビデオ編集ご苦労様でした。すばらしかったです。　・来年度も体験入学はあった方がいいと思う。いってみて思ったよりももっといい学校だってわかったし、いい機会だと思いました。　・とてもなじみやすくていい学校だと思った。先輩もいい人でとてもいいと思った。　・授業をどういう風にやるのかわかった。　・体験入学って結構固い雰囲気があったけど、ぜんぜんいい人ばかりですごくおもしろかった。高校に関心を持った。　・授業が体験できてよかった。軽高はとても楽しくて、いい高校だと思った。

高校生活の様子に肌で触れたことは、ほとんどの中学生が満足したようであった。中学の先生方も、体験入学が終わってから、意欲を持って進路決定をしようとする生徒達の姿を感じているという。

文化祭での連携アンケート（高校生・中学生・中学教師の声）

1　高校生へのアンケート
（浅間太鼓を演奏した生徒対象）

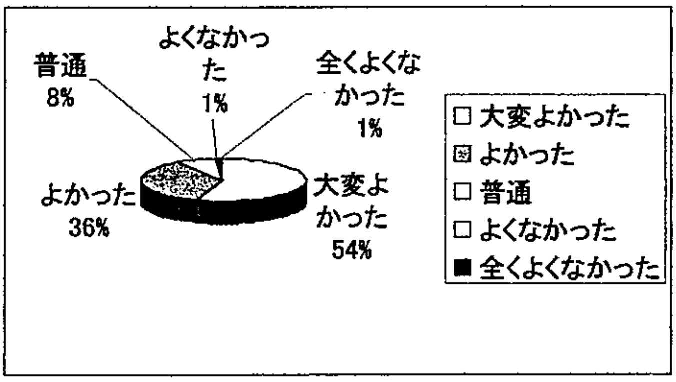
Q1　軽井沢中学で演奏してみてどんな感想を持ちましたか？



・中高で１つのイベントができたためよかった。　・中学生や先生達に喜んでもらえてうれしかった。　・結構上手にたたけてよかった。中学生の聞き方がよかった。・体育館が響いてよかった。　・よく聞いてくれた。シーンとなって太鼓の音が響いた。　・やっていて楽しかった。中学の文化祭とは思えないほど偉大なものだった。・体育館が狭かったのかよくわかんないけど大きくすごくできた。　・間違えないで満足できた。スポットライトをがんばって中学生が覚えてくれた。いっぱい拍手してくれた。案内してくれた中学生がすごく礼儀正しかった。　・高校生にはない、中学生の力をまじまじと見ることができた。　・高校生よりも中学生の方がよく聞いていてくれた気がする。また演奏したいと思った。　・中学生ががんばってやってくれた。スポットライトの人、すばらしい。よく一日で覚えたなと思った。　・演奏させていただきありがとうございました。案内してくれた人、すごく礼儀正しくてびっくりしました。

2　中学生へのアンケート（対象：全校生徒）

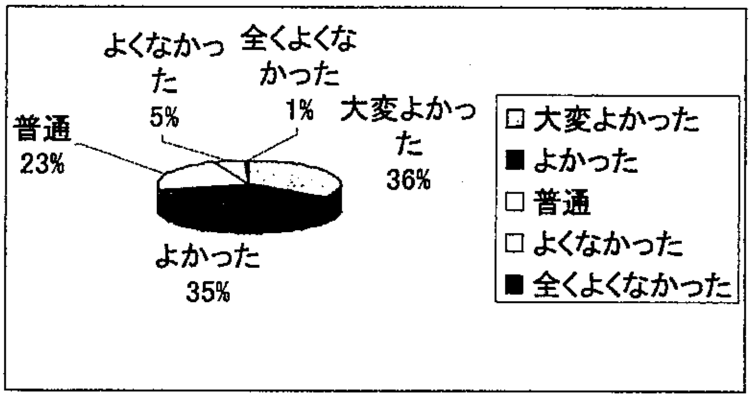
Q1　軽井沢高校生による浅間太鼓の演奏についてどんな感想を持ちましたか？



・すごい迫力だった。感動した。
・みんな揃っていてかっこよかった。
・思いっきり体を動かして、精一杯やっていた様子が伝わってきた。　・オープニングから盛りあがることができてよかった。盛り上げてもらって感謝です。　・迫力の入った声、太鼓のドドンという音、心の中まで響いた。
・一人一人が汗までかいてまめができるまでやるとはすごいと思った。　・高校生のすごさを実感した。　・一回、噴煙祭のとき聞いたけど、ものすごい上手！・リズムとかもよかったし、一番は軽高の先輩のやる姿がかっこよかったです。　・今までにないオープニングで迫力があってよかったです。　・一生懸命たたいていたし、すごい気持ちが込められていていたような

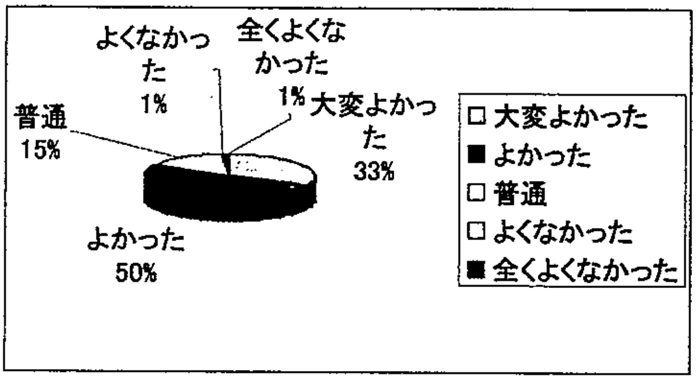
気がした。　・先輩達は恥ずかしがらずに堂々とやっていた。　・スポットライトが工夫されていた。少し長かった。

Q2　軽井沢高校２年生の英語模範スピーチについてどんな感想を持ちましたか？



・すごく発音がいいのがわかった。
・本物の外国人かと思った。　・よく意味が分からなかったけどうまかった。　・すごかった。私も前から軽高の英語科にいきたいと思っていたんだけど、スピーチを聴いてさらに強い気持ちになった。日本人じゃないみたいだった。すばらしい。　・軽中の人とレベルが違ってすごかった。　・やっぱり中学生と高校生の英語は全然違った。１年生の私には何もわからなかったけど。　・中学生より発音とか英語っぽくてめっちゃすごかった。でも何いってるのかわかんない。　・本当に外国人がしゃべっているのかと思った。高校生になるとこんなにうまくしゃべれるのかと思った。　・さすが高校生だと思った。　・スラスラしゃべっていたが、何をいっているのかよくわからなかった。　・発音がきれいだった。スラスラ読めててかっこよかった。

Q3　軽井沢高校文化祭の展示について



・個性があっておもしろかったし、こっててよかった。　・絵がすごくうまかった。　・自分の知らないことや、ペットボトルの展示がよかった。
・高校はこんなことができるのかと思った。　・僕たちよりもずっとうまかった。　・リサイクルとかペットボトルとか調べたことがたくさんあり、勉強になった。　・きれいな絵がたくさんあった。　・高校はやっぱりすごいなぁと思った。　・自分の知らないことやペットボトルの展示がとてもよかった。

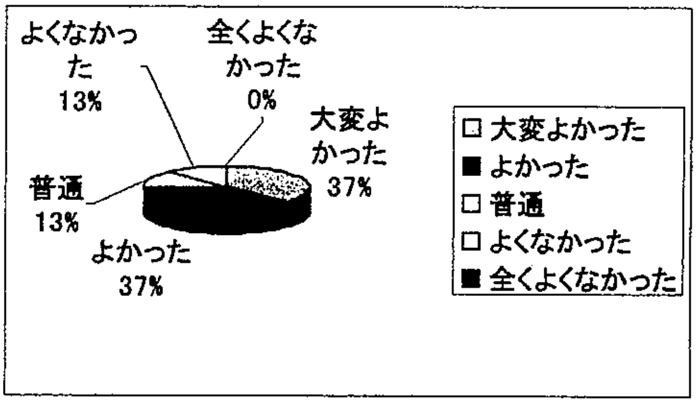
Q4　今回の文化祭に軽井沢高校が一部参加させていただきましたが、そのことについて感想があれば聞かせてください。

・中学生だけじゃなくて、高校生の参加もすごくいいと思う。何か違うものがやっぱあるから。　・別に参加してもらわなくてもいいと思う。　・これからも交流を深めていった方がいいと思う。　・これからも参加してください。　・軽中だけの文化祭だけでなくて他の学校と協力してやるのはすばらしいことだと思う。　・軽井沢高校が来てくださってとってもすばらしい文化祭になったと思いました。　・中学とは違

う一面があるのでよかったと思います。　・軽中の文化祭がよくなったと思う。来年も参加させてもらうといいと思う。　・からまつ祭を盛り上げていただきありがとうございました。　・高校の人は何をやってもうまかった。　・にぎやかになったようでとてもよかったと思いました。　・軽中の文化祭に軽高の人が来てくれて、みんなで成功させたって感じがした。　・軽中が何もしてないと思ったのでこれだけ盛り上げてもらってうれしかった。　・やっぱり高校生ってすごいなーと思った。　・今度は吹奏楽や劇をやってほしい。　・「ふれあえる軽井沢」にぴったりだった。こういうのもいいなぁと思った。　・来年も大きな力になるので、そちらのご都合がよければ、どうか参加してください。　・軽中と軽高が今までよりも仲良くなれた気がする。もっと交流を深めてほしいです。　・違う何かの行事とかのときにも来てもらいたい。すごいよかった。　・高校に入ればこんなすごくなれるんだと、入試に力を入れようと思えていいと思いました。　・もっと軽井沢高校のことをからまつ祭に取り入れてもっと盛り上げたい。

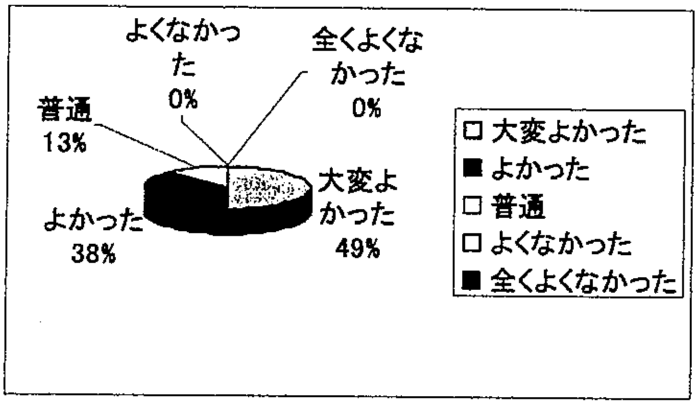
3　中学教師へのアンケート（対象：全職員）

Q1　軽井沢高校生による浅間太鼓の演奏についてどんな感想を持ちましたか？



・中学生でも太鼓を取り上げる学校もあるが、やはり高校生　は迫力の点で一長あり。連携　した場合の一つのステージづ　くりとしてプラスに思えた。
・迫力あるすばらしい演奏でした。
・文化祭を盛り上げていただきありがたかった。　・高校生が一生懸命取り組んでいる姿が印象的だった。
・男子の活躍も見られればなおよかった。男子が少なかったように思う　・開祭式は中学生がやるべき。　・洗練された迫力のある演奏で生徒の感動を呼んだ。　・はつらつとした高校生の姿を見ることができた。　・大変な練習の成果が現れていた。

Q2　軽井沢高校英語模範スピーチについてどんな感想を持ちましたか？



・英語科を目指す生徒にとっては大変励みになったと思う。・英語科のレベルの高さを感じた。　・生徒にはレベルが高すぎてわかりづらかったので、通訳が必要か。　・発音もよく、堂々としていた。　・当日は声の調子がよくない中、よくやってくれました。　・中学生にとっては難しいスピーチでしたが、高校生のスピーチを聴かせることができ、うれしく思います。

・卒業生がここまで英会話（スピーチ）を磨けるんだという目標ができた。（２～３年生に）１年生には無理がありそう。

Q3　その他、高校生の参加について、準備段階から片づけに至るまで、お気づきの点がありましたらご記入ください。

・挨拶等よくできていて、さわやかな生徒さんでした。　・リハーサルでやや連携面もう一歩か。　・服装がもう少し何とかならないか。　・校舎内外の服装は、中学の現状に合わせてほしい。(ルーズソックス、ミニスカート等)　・高校生の参加は必要ない　・展示では多くの資料を用意していただきましたが、中学生があまり見ていなかったのが失礼しました。　・廊下を歩くときなど、もっと挨拶をしっかりしてほしかった。